

2023 年度  
新入生 3000 名への  
オンライン救命救急講習会報告書



2023/05/22

救命救急講習 Project TEAM 作成

## 目次

I. 背景	1
II. 理念	1
III. 目的	1
IV. 方法	2-4
V. 結果	5-14
VI. まとめ	14-15
VII. 救命救急講習 Project Team メンバー	15
VIII. 謝辞	15
IX. 参考文献	16
X. 資料	
サポートインストラクター用手順書	

## I. 背景

心停止に陥った人を救命するためには、迅速な心肺蘇生の実施と自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator, AED) の使用が極めて重要である。<sup>1</sup> 京都大学構内には、附属病院を除いて学内に 120 台以上の AED が設置されているが、心停止になった人が亡くなった事例が発生している。AED の設置は学生・教職員が安全なキャンパスライフを送るために必要なことであるが、AED を使える人材を育成しなければ意味がない。

京都大学では、2015 年度から国際高等教育院所掌のもと、医学研究科・人間健康科学科、医学研究科・予防医療学分野、医学部附属病院 初期診療・救急科・救急部と連携を図り、新入生へのガイダンスにおいて全ての新入生約 3,000 人を対象に、胸骨圧迫と AED の使い方を指導する救命救急講習会を始めた。<sup>2</sup> この講習会では、人が倒れた場面、特に心停止場面に遭遇した際の救命処置のスキルを学生が習得するのみならず、困っている人に手を差し伸べる学生の人間性を育むことも学習の目標にしている。この取組みは、「京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。」本学の教育理念にも一致しているものである (<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/operation/ideals/basic>)。また過去にこの講習を受けた学生を対象に調査したところ、学部 4 年間に於いて 25 人に 1 人が、人が倒れた現場に遭遇し、遭遇した学生の 2 人に 1 人は何らかの救命処置を行っていた。<sup>3</sup> この事実は、この講習がいかに重要であることを示すものだと考えている。

2022 年度は対面での救命救急講習を計画していたが、新学期直前に COVID-19 感染が急速に拡大し実施することが出来なかった。2023 年度は 2021 年度のオンラインでの救命救急講習の実績を踏まえ、COVID-19 感染拡大等による中止を回避するために、再びオンラインで実施した。以下にその内容を記載する。

## II. 救命救急講習の理念

この講習では、心肺蘇生のスキルを教えることだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与え、困っている人に手を差し伸べる人間性を育むことを目的としている。またサポートスタッフ教員のもと、新入生は小グループでコミュニケーションをとる機会を得ることで交友関係の足掛かりになるようにする。

## III. 救命救急講習の目的

1. 心肺蘇生の実施や AED を使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに 119 番通報を行い、迅速に胸骨圧迫を実施し、AED を使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. ブレイクアウトルームを用い、同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとることが出来る。

#### IV. 救命救急講習の実施方法

##### 1. 対象

2023 年度京都大学に入学予定の全学部生 2,939 人

##### 2. 実施日時

2023 年 4 月 4 日(火)、4 月 5 日(水)、4 月 6 日(木)

いずれも 9:00-10:00 と 16:00-17:00、1 日 2 回合計 6 回実施

##### 3. 方法

###### 1) 学生のグループ分け

2,939 人の新生を下記のように学部(学科)に分け、1 回の講習で約 500 名、1 日 2 回、全 6 回講習会を行った。なお、学生数が多いため、講習の各時間帯に Zoom を 2 つ立ち上げた。

	Zoom	4/4(火)	4/5(水)	4/6(木)
9:00~ 10:00	①	文学部 (225 人)	地球工学科・建築学科 (273 人)	医学部(人間)・薬学部 (198 人)
	②	経済学部 (249 人)	理工工学科 (242 人)	理学部 (324 人)
16:00~ 17:00	①	総合人間学部・ 教育学部 (194 人)	電気電子工学科・ 情報学科 (229 人)	農学部 (307 人)
	②	法学部 (349 人)	工業化学科 (246 人)	医学部(医) (110 人)

###### 2) Web 会議システム (Zoom) の設定

上記グループ分けを行い、「新生ガイダンス(全学共通科目・全学機構・2023 年度)」PandA を経由して、Zoom を合計 12 ミーティング立ち上げた。

学生 10 名につき教員を 1 名配置し、胸骨圧迫の練習を計画していたため、Zoom に参加する人数は学生人数に教員人数を足した数となる。その場合、いくつかのミーティングで通常設定人数の上限である 300 名を超えるために、すべての学生、教員が参加できない。そのため、上限人数を 500 人に増やし対応した。

Zoom を Webinar 形式にしなかった理由は、一方的な映像の配信ではなく、講習会の途中でブレイクアウトルーム機能を使い、学生とインタラクティブなやり取りをこの講習会の中で行うためである。

###### 3) ネット環境が整っていない学生への対応

学生は原則、自宅等から Zoom にログインすることを呼びかけたが、ネット環境が整っていない学生がいることが予測された。そこでネット環境が整っていない学生は、学内の教室に来てもらうことで

同様の講習会を受けられるように配慮した。COVID-19 感染拡大予防のために、事前予約制とし、参加人数のコントロールを行った。

#### 4. 教育プログラム

使用する物品、教員の配置などを工夫することで、対面で行っていた指導内容と同様のものを実施した。なお講習の最後に COVID-19 流行時期における救命処置について追加で指導を行った。

##### 1) 学生に準備してもらった物品

2019 年までは心肺蘇生のトレーニングキット「あっぱくん<sup>®</sup>」を準備し、2 人で 1 個使用していたが、今回はオンラインのためあっぱくん<sup>®</sup>が利用できない。そのため、代わりに下記のことを各自準備するように周知をした。

- ① 座布団・枕・ぬいぐるみ・クッションなどしっかりと押せるもの 1 個 (胸骨圧迫の練習)
- ② 交通系 IC カードサイズのカード類 2 枚 (AED パットの代わり)
- ③ 体重計 (胸骨圧迫の強さを可視化するため。ただし必須ではない)

##### 2) 時間割

胸骨圧迫と AED の使い方を 1 人につき 1 体のトレーニングキットを用い、45 分間で多人数に対して指導を行う教育プログラムは、科学的検証を行い確立されている。<sup>4</sup>

今回はこのプログラムをベースに、Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて学生を少人数グループに分け、サポートスタッフの教員による見守りのもと胸骨圧迫の練習を行った。また、COVID-19 流行時期における救命処置の説明を加え 60 分で行った (詳細は X. 参考資料「サポートスタッフ用手順書」参照)。

Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用した胸骨圧迫を練習する場面では、学生を少人数 (学生 10 名に対して教員 1 名) に分け、ブレイクアウトルームに配属された教員は、学生が指導された通り胸骨圧迫を実施できているかを確認するとともに、学生同士の自己紹介やコミュニケーションの場を提供した。

##### 3) 教員の役割

人間健康科学科全ての教員および、Project Team メンバーを以下 5 つの役割に分けた。

###### ① インストラクター

講習においてメインで指導を行うもので、各講習につき 1 名、のべ 6 名を配置した。インストラクターは、あっぱくん<sup>®</sup>を使った講習を日ごろから実施し、心肺蘇生教育に慣れている熟練指導者とした。なお学内の教員だけでは人手が不足するため、オンラインでの講習の実施にたけている外部メンバーに協力を依頼した。

###### ② インストラクター補助

インストラクターが不測の事態に陥った場合インストラクターとして指導および運営を担う。各講習会につき少なくとも 1 名配置した。

③ サポートスタッフ

ブレイクアウトルームの間、学生の自己紹介を誘導し胸骨圧迫の指導を担う。学生約 10 名につき 1 名を配置した。

④ ブレイクアウトルーム係

ブレイクアウトルーム時に学生約 10 名に対して教員 1 名が配置されるよう Zoom の操作を行うもの。

⑤ インターネット環境がない場合の視聴場所対応係

吉田南 4 共 30 に集まった学生に対し、感染対策を行いながら、オンライン講習を誘導するもの。

4) 手順書の作成と FD での事前説明

救命救急講習に携わる全ての教員に、この講習の理念、目的、方法を知ってもらうために手順書を作成した。救命講習会の約 2 週間前、2023 年 3 月 16 日(木)の FD にて、全教員に手順書を用いて説明を行った。

2021 年に経験している教員にとってもオンラインでの実施は 2 年ぶりであること、2021 年度以降に着任した教員にとっては初めての経験になることから、手順書を配布して説明するだけでなく、教員にクッション等を準備してもらって実際にブレイクアウトルームを行い、学生の役割を体験してもらうことでイメージをつかんでもらった。

5) ブレイクアウトルーム係

Zoom の参加者をランダムにブレイクアウトルームにおけるグループに割り付ける機能を使用して、当日 Zoom にログインした学生および教員を学生 10 名につき教員 1 名が 1 つのグループになるように短時間で操作する必要があった。ブレイクアウトルームの操作に慣れるために、2023 年 3 月 16 日(木)の FD で Zoom 操作を行い、2021 年度のノウハウを共有して本番に臨んだ。

6) オンライン講習のリハーサル

インストラクターを担うメンバーのインストラクションの質が異ならないように、インストラクター間で進行や指導内容、使用するスライドの共有などについて事前打ち合わせを行った。

## V. 結果



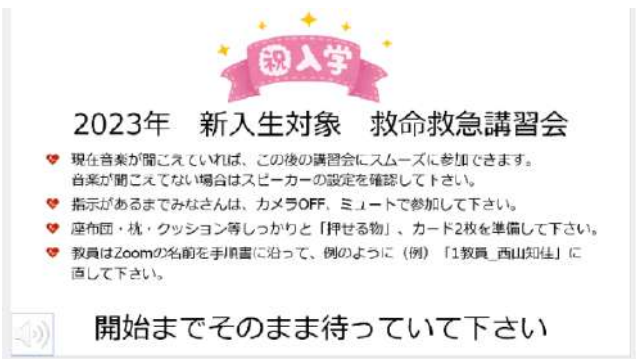
### 1. オンライン講習への参加状況

(Zoom へのログイン人数、Zoom 配信教室、吉田南 4 共 30 を元に算出)

4月4日(火)						
	学部・学科 (対象人数)	学生数		教員数 (インスト、サブインスト含む)		
		Zoom	4 共 30	Zoom	4 共 30	Zoom 配信 教室
1 回目 9:00~	文学部 (225 人)	140	2	33	2	8
	経済学部 (249 人)	183		25		4
2 回目 16:00 ~	総合人間学部・教育 (194 人)	106	1	31	3	7
	法学部 (349 人)	190		27		4
4月5日(水)						
1 回目 9:00~	地球工・建築学科 (273 人)	169	1	33	2	6
	理工工学科 (242 人)	181		20		5
2 回目 16:00 ~	電気電子工・情報学科 (229 人)	141	0	29	2	6
	工業化学科 (246 人)	140		23		5
4月6日(木)						
1 回目 9:00~	医(人)・薬学部 (198 人)	161	0	22	2	6
	理学部 (324 人)	255		29		5
2 回目 16:00 ~	農学部 (307 人)	216	1	36	2	6
	医学部(医) (110 人)	91		10		5
合計		1973	5	318	13	67
		1978		398		




## 2. 講習会の様子




### 1)2 部屋に分かれて行った Zoom での配信の様子

<p>zoom の立ち上げ</p>	<p>講習開始 40 分前に、ブレイクアウトルーム係により、あらかじめ準備した Zoom のミーティングルームを立ち上げた。</p>	
<p>インストラクターとサブインストラクターの直前打ち合わせ</p>	<p>講習開始 30 分前に、インストラクターとサブインストラクターが最終の打ち合わせ、DVD やパワーポイントの動作確認、音量チェック、カメラ、マイクの確認を行った。</p>	
<p>学生、サブインストラクター入室</p>	<p>講習開始 10 分前に、学生、サブインストラクターの入室を開始した。</p>	



<p>講習の目的説明、物品の確認</p>	<p>講習を行う意義や目的を説明し、講習で使用する使用物品、①座布団・枕・ぬいぐるみ・クッション、②AEDパットの代わりにカード類2枚、③胸骨圧迫の強さを可視化するための体重計が準備できているかまず確認した。</p> <p>過去にこの講習を受けた学生を対象に調査した結果、学部4年間に於いて25人に1人が、人が倒れた現場に遭遇し、遭遇した学生の2人に1人は何らかの救命処置を行っていることを伝え、他人ごとではないことを強調した。</p>	 
<p>教員紹介</p>	<p>ブレイクアウトルームを担当する教員にカメラをOnにしてもらい学生に紹介した。</p>	
<p>メッセージビデオの視聴</p>	<p>心停止で子供を亡くされた方たち、心停止から生還された方たちの協力のもと作成した、約5分間のメッセージビデオを視聴し動機づけを行った。</p>	

<p>胸骨圧迫</p>	<p>説明用の DVD の映像を一時停止して、インストラクターが手の組み方、胸骨を圧迫する際のポイントを補足した。</p> <p>体重計を準備している学生には、クッションの下に体重計を置き、30kg の力で圧迫できているか確認しながら行うように指導した。</p>	
<p>ブレイクアウトルーム (10分)</p>	<p>胸骨圧迫の方法について全体で説明を終えた後、学生 10 名、教員 1 名のブレイクアウトルームを作成した。</p> <p>ブレイクアウトルームでは、できる限りカメラを On にするように伝え</p> <p>① 教員の誘導の元、まず自己紹介を行った</p>	<p>ブレイクアウトルームを作成している様子。各ブレイクアウトルームに教員が複数名入っていないか、人数はおおよそ均等になっているか目視で確認し、ブレイクアウトルームを開始した。</p>  <p>胸骨圧迫の練習の際には、押している様子が合わるように学生にカメラアングルを整えるように伝えた。</p> 

	<p>② 教員見守りの元、胸骨圧迫を1分間体験した。胸骨圧迫のリズム(100-120/分)はあらかじめ教員に108/分のメロノーム音源(mp4)を配布していたので、音源を音声共有することで、リズムをとりながら胸骨圧迫の練習を行った。</p>	<p>教員が参加学生と一緒にカメラに向かって胸骨圧迫をしている様子</p> 
<p>AEDの使い方</p>	<p>胸骨圧迫同様に、説明用DVDの映像を一時停止して、インストラクターがAEDパッドを貼る位置について自分の体で確認するように促し、パッドを貼る位置を覚えてもらった。</p> <p>学生には、準備した2枚のカードをAEDパッドと見立て、クッションを倒れている人と見立てて、模擬AEDから流れる音声に合わせてパッドを貼るよう誘導した。</p> <p>安全確認を行った上で電気ショックボタンを押すように伝えた。</p>	<p>使用方法を理解してもらうために、画面いっぱい模擬AEDを映し、リアリティを持たせるため実際のAEDの音声も流した。</p>  



<p>コロナ流行下における救命処置の説明</p>	<p>コロナ流行下において、心停止現場に遭遇した際の対応についてスライドを用いて説明した。</p>	
<p>学内のAED設置場所</p>	<p>各自よく使う校舎、部活の部室の近くなど、最寄りのAEDがどこに設置されているか、キャンパスマップで確認しておくように伝えて講習を終えた。</p>	

2) 吉田南 4 共 30 の様子

インターネット環境がない学生のための視聴部屋では、Zoomに接続したPCを準備して映像をスクリーンに映し、この部屋にきた学生に講習会へ参加してもらった。



3日間を通して講習会中に体調不良や怪我を起こす学生はいなかった。

### 3) オンデマンド配信

Zoom にログインしていたもののネット環境が不安定になり途中から参加できなかった学生、当日参加できなかった学生に対する教育の機会を担保した。連絡用 Google フォームを設置し、連絡をしてきた学生に対して録画した動画の URL を個別に伝え、後日動画を視聴できるようにした。

### 3. アンケート結果

オンライン講習へ参加した学生および後日録画した動画で視聴した学生を合わせて、合計 2,277 人からアンケートの回答を得ることができた(77.5%)。

#### ①本学入学前の教育課程における、心肺蘇生および AED に関する教育歴

問 1. これまでに、心肺蘇生法や AED の使い方の講習会を受けたことがありますか？

	n=2,277	%
トレーニング人形を用い、 実技をともなう実習形式の授業	1498	65.8
講義のみの授業	461	20.2
今回初めて心肺蘇生の授業を受けた	318	14.0
無回答	1	0.0

問 2. 今まで講習会を受けた方は、どこでその講習会を受けましたか？(重複回答)

	n=1,959	%
小学校	504	25.7
中学校	1247	63.7
高等学校	967	49.4
運転免許取得時	42	2.1
その他	52	2.7

#### ②講習会内容の理解度

問 3 心停止(もしくはそれを疑う事態)に遭遇した際、どのような救命行動をとればよいのか、今回の講習会でその方法を理解することができましたか。

	n=2,277	%
よく理解できた	1744	76.6
どちらかという理解できた	485	21.3
どちらとも言えない	40	1.8
どちらかという理解できなかった	2	0.1
理解できなかった	6	0.3
無回答	28	1.2

③今回の取り組みについて

問4 入学前オリエンテーションで、今回のような Zoom を用いた心肺蘇生法の講習会を行うことをどう思いますか。

	n=2,277	%
有意義だと思う	1491	65.5
どちらかというと有意義だと思う	558	24.5
どちらとも言えない	154	6.8
どちらかというの意味がないと思う	44	1.9
意味がないと思う	19	0.8
無回答	11	0.5

問5 これからも心肺蘇生の方法や AED の使い方を定期的に学びたいと思いますか？

	n=2,277	%
とても思う	1058	44.5
どちらかという学びたいと思う	928	39.0
どちらとも言えない	223	9.4
どちらかという学びたいとは思わない	43	1.8
全く思わない	25	1.1
無回答	0	0.0

問6 同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとる時間をどう思いましたか。

	n=2,277	%
有意義だと思う	852	37.4
どちらかというと有意義だと思う	636	27.9
どちらとも言えない	438	19.2
どちらかというの意味がないと思う	173	7.6
意味がないと思う	76	3.3
ライブで講習会に参加できなかったのわからない	102	4.5
無回答	1	0.0

問7 救命講習会を受けた感想(寄せられた820名からの自由記載から一部抜粋)

- ・ もし目の前で人が倒れてしまったら、躊躇わず速やかに救命活動に取り組みたい。
- ・ 周りの目をにせず救助することをためらわないことを心掛けたい
- ・ スポーツをしようと思うのでその際に活かすことができるようしっかり習得したい。
- ・ 何も怖がる必要はないということを心に留めて動きたい
- ・ 実際に胸骨圧迫をした時に結構疲れることがわかった、体力をつけようと思います
- ・ 自分が助けられる機会があった時は今回学んだことを生かして行動したい。
- ・ 実践の機会がないことが1番ですが、もしその機会があったら今回学んだことを活かせればいいな、と思います。
- ・ 校内のAEDの位置を確認して、いざという時に迅速に対処できるようにしたい
- ・ 完璧でなくてもいいから救命行為をするという言葉はすばらしいと思いました。いざという時に行動できるように頑張ります。
- ・ 心肺蘇生やAEDが思っている以上に身近なものであることを感じる事ができた。
- ・ 実際の映像や実例で心肺蘇生を自分事に捉えることができました。
- ・ 2回生以降も救命救急講習に参加できるような機会を設けてほしいと思う。
- ・ これまでにも何度か習ったことはあるが、確認しないと忘れてしまうものなので、大学入学に際しこのような機会がありよかった。
- ・ 先生やほかの学生とも交流できて楽しかったです。
- ・ 以前習ったものだったが、時間が経って、難しそうというイメージがついていた。改めて学んだことで、自分でもできそうだとことを再認識できた
- ・ 過去に何度か今回のような講習を受けたのですが忘れていた事もあったので、やはり定期的に学び続けることが必要だと感じました。
- ・ 強制参加にしないと実施する意味がないと感じた。
- ・ 中学校、高校でAEDや胸骨圧迫に関する実践授業を人形も使ってやっていたけど忘れていた部分もあり、ためになった。
- ・ 自分は半年ほど前に倒れている人を前にして積極的に動けなかったことがあり、その経験からもし次そんなことがあったら今度は自分が率先して動くことを心にきめました。(ちなみにその時は一緒にいた友人が救助したことで一命を取り留めました。)今日参加した他の皆さんにもぜひ自分から動けるように心がけてほしいと思います。
- ・ 突然の心停止が「万が一」というほど珍しいことではないと分かった、大学構内や生活エリアのAEDの所在場所を把握しておきたいと思う
- ・ クッションではなく人形を使った練習や胸骨圧迫の交代の練習もしてみたいので、オフライン開催の講習会も併せて行ってほしい。また、心肺蘇生は緊急時に重要な行動であるにもかかわらず、日々の生活ではなかなか練習の機会も取れず忙しい学生生活では後回しにされがちなことだと感じているので、原則参加の講習会を定期的に行ってほしい。
- ・ また、この講習会まで同じ学部の新生と交流する機会がなかったので、今回の講習会は心肺蘇生法の学習の機会だけでなく、新生同士の交流の機会も提供されたと思います。
- ・ 理工学科は人数が多いのでオンラインにすることで一人一人に伝わったと思う。

- ・ グループに分かれた時に、先生がうまく話を回して良い雰囲気を作ってくださったので、楽しく学べました。
- ・ 京大構内だけでなく、町や建物の中でも AED の場所を見かけたら、把握しておきたい
- ・ 蘇生のやり方を復習できた。応援しているサッカーチームの元有名選手が心停止で亡くなるということが過去あったため、蘇生の重要性は理解しているつもりでいる。今後そのような場面に遭遇したら率先して蘇生に取り組みたい。

#### 【要望】

- ・ ブレイクアウトルームの時間をもう少し増やすとよいと思いました！
- ・ この講習会内で人工呼吸についても講習があると有難いなと思いました。
- ・ 受講しても間が開くと忘れてしまうので、1・2年に1回の頻度で講習会があっても良いなと思った。
- ・ 本音で言えば、リアルに近い「人形」で、力加減などを実際に則して学びたかった

#### VI. まとめ

2015年から全新生に対する胸骨圧迫と AED の使い方を指導する講習会を始め、COVID-19 の影響で実施できなかった 2020 年度と 2022 年度を除き、今回で 7 回目、これまで 2 万人以上の新生が胸骨圧迫と AED の使い方を学んだ。毎年すべての新生を対象に継続して胸骨圧迫と AED の使い方を実技指導している大学は日本中どこにもなく、京都大学のユニークな取り組みの 1 つである。

2021 年度にはじめてオンラインで講習を行い今回はその時のノウハウを活かして、60 分という短時間において、効率よく 3000 人という多人数に対して胸骨圧迫と AED の使い方を指導することができた。その結果、学生の 97.9%が、心停止に遭遇した際、どのような救命行動をとればよいのか理解することができたと回答し、90%の学生が入学前ガイダンスで Zoom を用いた救命救急講習を行うことが有意義だと回答していた。オンラインであったとしても「救命処置の流れを理解する」というこの講習の目的はほぼすべての学生が達成でき、大多数が満足する講習を行えたと言える。その要因には、①のべ 398 人の教員の協力を得て、Zoom のブレイクアウトルームを用い双方向性の実技演習を行えたこと、②身近な物品を教材とし、学生に過度な負担をかけなかったこと、③講習開始前に、京都大学の学生が卒業までに倒れた人に遭遇する頻度をデータで提示したこと、④心肺蘇生を学んだ経験のある学生にとっては、復習の機会となったこと、⑤キャンパスマップを紹介して、学内で設置されている AED 場所を知るきっかけを与えたことが考えられる。

大学生活 4 年間で 25 人に 1 人が、人が倒れるところに遭遇しているデータを示すことで、学生は心停止を身近に感じ、この講習を学ぶ意義や必要性を理解できたと考えている。今回の講習会では、インストラクターが冒頭にこの説明を必ず行い、最後にキャンパスマップを示すことで、自分で身近な AED 設置場所を確認するように自己学習を促す構成にした。学生が、心停止を自分ゴトとしてとらえることで学びを深め、学生、教職員にとって安全なキャンパスになることが期待できる。

65.8%の学生が大学入学までに実技を伴う心肺蘇生の講習を受けており、この数字は講習を開



始した 2015 年度と比べると増えてきている(2015 年度 57.5%、2016 年度 60.4%、2017 年度 65.4%、2018 年度 66.9%、2019 年度 68.8%、2021 年度 73.2%)。2021 年 4 月から中学校、2022 年 4 月から高等学校において新学習指導要領に基づいた教育が開始されているので、<sup>5</sup>今後実技を伴う心肺蘇生の講習の経験を有している新入生の割合が増えてくると期待している。しかし、心肺蘇生のガイドラインは 5 年毎に改定されていること、繰り返し講習に参加することによって技術・知識が身につくことから、大学入学のタイミングで最新のガイドラインに基づいた方法を復習しておくことは必要だと考えている。

今後も救命救急講習 Project Team メンバーを中心に、国際高等教育院、医学研究科の関連部門と連携を取り、継続してこの取組みが行えるようにしていきたい。

## VII. 救命救急講習メンバー

2023 年度新入生 3000 名へオンラインの救命救急講習会の計画立案、運営、サポートスタッフ手順書作成は、以下に示す救命救急講習 Project TEAM メンバーおよび、人間健康科学系専攻の教員によって行った。

### 【救命救急講習 Project TEAM】

チームリーダー	石見 拓(医学研究科・予防医療学分野・教授)
サブリーダー	黒木裕士(医学研究科・人間健康科学系専攻・教授)
チームメンバー	大鶴 繁(医学研究科・初期診療・救急医学分野・教授)
チームメンバー	田中真介(国際高等教育院・准教授)
チームメンバー	金丸敏幸(国際高等教育院・准教授)
チームメンバー	江川達郎(人間・環境学研究科 認知・行動・健康科学講座・助教)
チームメンバー	島本大也(医学研究科・予防医療学分野・特定助教)
チームメンバー	谷間桃子(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
チームメンバー	浅瀬万里子(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
コーディネーター	西山知佳(医学研究科・人間健康科学系専攻・准教授)

### 【Zoom 操作担当、資料作成担当、現場担当サポート教員】

田畑阿美(医学研究科・人間健康科学系専攻・講師)
上野智弘(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
鳥井美江(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
榛葉旭恒(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)

## VIII. 謝辞

今回の講習会を実施するにあたり、ご協力を下さりました国際高等教育院企画調整掛の皆様、企画・情報部 情報推進課 情報環境支援センターの皆様、情報環境機構 情報環境支援センター 森村吉貴准教授、四方 敏明様、情報環境機構 IT 企画室 岩倉正司様、人間健康科学系専攻 教務掛の皆様には厚く御礼申し上げます。

## IX. 参考文献

1. JRC 蘇生ガイドライン 2020、一般社団法人 日本蘇生協議会(監修)、医学書院、2021 年
2. 西山知佳、馬場正昭、黒木裕士、佐藤隆平、川村孝、小池薫、田中真介、内藤知佐子、石見拓. 国立総合大学全新入生を対象にした胸骨圧迫・AED 使用法教育. 日本臨床救急医学会誌, 2017.20;682-688
3. Nishiyama C, Sato R, Baba M, Kuroki H, Kawamura T, Kiguchi T, Kobayashi D, Shimamoto T, Koike K, Tanaka S, Naito C, Iwami T. Actual resuscitation actions after the training of chest compression-only CPR and AED use among new university students. Resuscitation. 2019;141:63-68.
4. Nishiyama C, Iwami T, Kitamura T, Ando M, Sakamoto T, Marukawa S, Kawamura T. Long-term retention of cardiopulmonary resuscitation skills after shortened chest compression-only cardiopulmonary resuscitation training and conventional cardiopulmonary resuscitation training: a randomized controlled trial. Acad Emerg Med. 2014; 21: 47-54.
5. 文部科学省. 平成 29・30 年改訂 学習指導要領、解説等 ([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)) (最終アクセス 2023 年 5 月 7 日)

## X. 資料

サポートインストラクター用手順書

2023 年度  
新入生 3000 名  
オンライン救命救急講習  
サポートスタッフ手順書



2023/03/15

Ver. 2

救命救急講習 Project TEAM 作成

## 目次

I. 救命救急講習の理念	1
II. 救命救急講習の目的	1
III. 救命救急講習実施の概要	1
IV. オンライン救命救急講習の日時と学生分け	1
V. Zoomを使用したオンライン救命救急講習について	2
VI. 役割	2
VII. 役割毎の手順	3-12
VIII. 講習直前、講習中に困ったことが起きた場合	12
IX. 4月1日に着任される先生方および、その先生方をサポートして下さる先生へ	13
X. Zoomの担当教員配置表	15-17
XI. オンライン救命救急講習時間割り	18

## I. 救命救急講習の理念

新入生に心身の健康と命の大切さを感じ取ってもらうことを目的とした講習です。新入生は小グループでお互いの顔を見てコミュニケーションをとる機会を得ながら、心肺蘇生の流れを学びます。

この講習では、心肺蘇生のスキルを教えることだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与えることを目指しています。また、新入生とサポートスタッフの教員が対話をしながら心肺蘇生を学ぶことによって、社会や仲間の中での自己信頼性と自己肯定性、自己有用性を高めたいと思います。

## II. 救命救急講習の目的

1. 心肺蘇生法を実施し AED を使用することで救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに 119 番通報を行い、迅速に胸骨圧迫を実施し、AED を使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. ブレイクアウトルームを用い、同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとることが出来る。

## III. 救命救急講習実施の概要

新入生ガイダンスの一貫として、学生は健康診断と救命救急講習を同日に受ける予定です。2023 年 4 月 4 日(火)、4 月 5 日(水)、4 月 6 日(木)、各日午前と午後 1 時間のオンラインで講習を行います。学生数が多いので、講習の各時間帯に Zoom を 2 つ立ち上げます。1 回の講習で約 500 名、1 日 2 回、全 6 回行うことで新入生約 3000 人に指導を行います。

## IV. オンライン救命救急講習の日時と学部分け

2023 年 4 月 4 日(火)、4 月 5 日(水)、4 月 6 日(木)

いずれも 9:00-10:00 と 16:00-17:00、1 日 2 回合計 6 回実施

	Zoom	4/4(火)	4/5(水)	4/6(木)
9:00~ 10:00	①	文学部 (220 人)	地球工学科・建築学科 (265 人)	医学部(人間)・薬学部 (180 人)
	②	経済学部 (240 人)	物理工学科 (235 人)	理学部 (311 人)
16:00~ 17:00	①	総合人間学部・ 教育学部 (180 人)	電気電子工学科・ 情報学科 (220 人)	農学部 (300 人)
	②	法学部 (330 人)	工業化学科 (235 人)	医学部(医) (107 人)

## V. Zoomを使用したオンライン救命救急講習について

### 1. 学生が準備している物品

- ① 座布団・枕・ぬいぐるみ・クッションなどしっかりと押せるもの(胸骨圧迫の練習)1個
- ② 交通系 IC カードサイズのカード類 2 枚(AED パットの代わり)
- ③ 体重計(あれば。胸骨圧迫の強さを可視化できるが必須ではない)

### 2. 講習内容の概要

- ① 概要説明とメッセージビデオを視聴(全体)
- ② DVD を用いて、胸骨圧迫と AED の使い方を体験(全体+ブレイクアウトセッション)  
途中ブレイクアウトルームを作成して小グループを作成。10 分間のブレイクアウトセッションに担当教員が誘導し学生同士の自己紹介したのち、胸骨圧迫の練習を行う。
- ③ COVID-19 流行時期における救命処置について説明(全体)

## VI. 役割

### A) インストラクター

講習の指導および運営を担う。

### B) サブインストラクター

サブインストラクターは、必要時 DVD やパワーポイントの操作を担い、インストラクターの不測の事態に陥った場合インストラクターとして指導および運営を担う。

### C) サポートスタッフ

ブレイクアウトセッション時、学生の自己紹介を誘導し、胸骨圧迫の実施を促す。

### D) ブレイクアウトルーム係

ブレイクアウトルーム時に学生約 10 名に対して教員 1 名が配置されるように操作する。

### E) インターネット環境がない学生向け現地対応係

吉田南 4 共 30 に集まった学生に対し、感染対策を行いながら講習に参加させる。

## VII. 役割毎の手順

### B) サブインストラクター

冒頭不測の事態に備えるとともに、ブレイクアウトセッション中に、回線トラブルなどでメインルームに戻ってきた学生へ胸骨圧迫の指導を行ってください。

### C) サポートスタッフ

- ① PandA (<https://panda.ecs.kyoto-u.ac.jp/portal/>)にログインし、「新入生ガイダンス(全学共通科目・全学機構・2023年度)」にアクセスして下さい。



もし該当する PandA が現れない時には、PandA 画面右上にあるマトリクス(9 つ四角形に並んでいるアイコン)、以下の画面でいうと赤丸をクリックして、「サイト」から該当するものを見つけてクリックして下さい。



- ② Zoom へログイン**《時間厳守でお願いします》**

画面左にある「KU Zoom」をクリックして下さい。当日、ご自身が担当する学部(学科)の Zoom の部屋へ、**遅くとも講習開始 5 分前にはログインをして下さい**。ご自身が担当する学部(学科)は、この手順書 15-17 ページで確認できます。

\* 下の参考画面の例は 4 月 4 日(火)9:00~10:00 の文学部と経済学部です。



現在のタイムゾーンと言語は (GMT+09:00) 大阪、札幌、東京、日本語

Zoom KU License Portal

開始時刻	トピック	ミーティングID
Tue, Apr 4 9:00 AM	4月4日(火) 9:00-10:00 Zoom① 救命救急講習 (文学部)	815 5516 8683
Tue, Apr 4 9:00 AM	4月4日(火) 9:00-10:00 Zoom② 救命救急講習 (経済学部)	837 1147 8640

担当の Zoom にログイン

### ③ 【必須】名前の変更

ログイン後、表示されているご自身の氏名の前に、手順書の各サポートスタッフについている「番号」と「教員」と「\_(アンダーバー)」を追記し、「氏名」をフルネームに修正してください(例: 1 教員\_西山知佳)。

ブレイクアウトルームの作業の際に、学生と教員を区別するためです。ログイン後、カメラオフ、ミュートにしてください。インストラクターが冒頭に人間健康科の教員を紹介しますので、その際は、一時的にカメラをオンにして手を振って下さい。その後、カメラをオフにして、ブレイクアウトルームのタイミングまで学生と一緒に視聴して下さい。

### ④ 10 分間のブレイクアウトルーム(自己紹介(7 分)と胸骨圧迫の練習(3 分))

開始から約 20 分後(時間割参照)、ブレイクアウトセッション機能を使って、サポートスタッフ 1 人と新入生約 10 名の小部屋に分かれます。

ブレイクアウトルームの時間は 10 分(自己紹介[7 分]と胸骨圧迫の練習[準備含め 3 分])です。10 分経過すると自動的に全体ルームに戻るため、時間厳守で運営をお願いします。

### ⑤ 自己紹介の誘導:7 分

ブレイクアウトルームに分かれたら、教員はカメラおよび音声をオンにしてください。学生にはカメラのみオンにするよう誘導してください。

教員がリードして教員および学生の一人 30 秒の自己紹介を行ってください。名前、学部、出身地、好きなことなど、7 分でおさめてください。

注1. 一人 30 秒の自己紹介が長引いたら終わるように声掛けしてください。

注2. 自己紹介前にマイクのミュートを解除して、自己紹介が終わったらマイクをミュートにするように伝えて下さい。

注3. カメラが OFF の学生がいたら、できる限りカメラを ON にするように促して下さい。ただし、カメラ ON をすることは必須にはしていません。



### セリフの例

「このグループを担当します教員の〇〇です。よろしくお願いします。まず、自己紹介を一人 30 秒程度でしていただきます。お名前、学部、出身地、好きなことの 4 つをお願いします。自己紹介をする時には、マイクのミュートボタンを押してミュートを解除してから話をして下さいね。では、最初は私からします。〇〇学部の〇〇です、出身は〇〇です。〇〇が大好きです。よろしくお願いします。次は〇〇さん。マイクのミュートを外して始めて下さい。……」

### ⑥ 胸骨圧迫の準備: 1 分

右の写真のように学生が胸骨圧迫をしている様子が見えるように、カメラアングルを整えるようにお伝え下さい。なお、ブレイクアウトルームに移動する前に、全体に対してインストラクターからカメラアングルの説明を行います。



### セリフの例

「これから胸骨圧迫の練習をするため、さっき説明があったようにカメラアングルの設定をし、自分の姿と押している物が映るようにしましょう。」

### ⑦ リズム音源の準備

事前に配布している「胸骨圧迫リズム」の音源は、ご自身でアクセスしやすい場所にダウンロードしておいてください。学生の(カメラアングルの)準備ができたなら、以下①～⑤の手順で音声共有の準備を行い、事前に配布された胸骨圧迫のリズム音の音源をクリックして下さい。

② 「詳細」を選択

③ 「コンピュータオーディオ」を選択

④ 「サウンドの共有」を選択

⑤ 「共有」を選択

① 「画面の共有」を選択

⑧ 胸骨圧迫の練習:1分

ピッピツというリズム音に沿って1分間胸骨圧迫の練習を誘導してください(音声があがれたまま教員のカメラの映像は学生に見えています)。

セリフの例

「準備はいいですか?では、1分間の胸骨圧迫の練習を始めます。リズム音が1分間こえてきますので、この音に合わせて胸骨圧迫を1分間体験しましょう。」

注1. 胸骨圧迫の練習の際、手の組み方、ひじが曲がっていないか確認して

「いいね!」「その調子」「がんばれ!」など声掛けをしてください。

注2. 体重計を使用している学生には30kg程度になっているか声掛けしてください。

⑨ 胸骨圧迫の練習終了後:1分

1分間の練習の後、画面左上部の「共有の停止」ボタンを押し、労をねぎらってください。ブレイクアウトルームは**10分で自動的に閉じます**ので、全体の講習に自動的に移動することを伝え、マイクをミュートにしてください。

セリフの例

「お疲れ様でした。次は全体の講習に自動で移りますのでお待ちください。」

⑩ ブレイクアウトルーム終了後、カメラオフ・ミュートで学生と一緒に視聴して下さい。

## D) ブレイクアウトルーム係

### 1. 事前準備

榛葉先生 (Zoom①のホスト) と鳥井先生 (Zoom②のホスト)

#### ① Zoom の設定


- ・**3月30日(木)までに**学部ごとの Zoom を各自 6 部屋ずつ立ち上げておいてください。
- ・トピックスには新入生が迷わないように、日付、曜日、時間、Zoom 番号、救命救急講習、学部を記載して下さい。なお次ページの表示を参考に、学部名や学科名は略さずに記載して下さい。
- (例: 4月5日(水)9:00-10:00 Zoom② 救命救急講習(工学部 物理工学科))
- ・各 Zoom の URL、ミーティング ID、パスコードの一覧をまとめて、3月30日(木)までに西山へ送付して下さい。
- ・セキュリティー:「待機部屋」のみ有効にしておいてください。
- ・ミーティングオプション:「入室時に参加者をミュートにする」のみ有効にして下さい。

#### ② 共同ホストの設定

上野先生 (Zoom①)、浅瀬先生 (Zoom①)、谷間先生 (Zoom②)、島本先生 (Zoom②)、黒木先生 (Zoom①、②)、西山 (Zoom①、②) を設定する。

### 2. 当日の流れ

時間	項目	内容
8:00 または 15:00	集合・準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際高等教育院棟 3F31 または 32 へ各自の PC を持って行く (予備 PC として予約済の授業用 PC も持参する)。</li> <li>・PnadA にログインし、担当する学部の Zoom を立ち上げる。</li> </ul> <p>【榛葉先生・上野先生】</p> <p>Zoom①</p> <p>4/4(火)9:00-10:00: 文学部 16:00-17:00: 総合人間学部・教育学部</p> <p>4/5(水)9:00-10:00: 工学部(地球工学科・建築学科) 16:00-17:00: 工学部(電気電子工学科・情報学科)</p> <p>4/6(木)9:00-10:00: 医学部(人間健康科学科)・薬学部 16:00-17:00: 農学部</p> <p>【鳥井先生・谷間先生】</p> <p>Zoom②</p> <p>4/4(火)9:00-10:00: 経済学部 16:00-17:00: 法学部</p> <p>4/5(水)9:00-10:00: 工学部(物理工学科) 16:00-17:00: 工学部(工業化学科)</p> <p>4/6(木)9:00-10:00: 理学部 16:00-17:00: 医学部(医学科)</p>

		<p>・ブレイクアウトルームに分かれた際、サポートインストラクターがリズムの音源を共有できるように、画面の共有→「複数の参加者同時に共有可能」にチェックを入れておく(下記画面参照)。</p> 
<p>8:30- または 15:30</p>	<p>外部インストラクター入室</p>	<p>外部インストラクター入室、打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師のインストラクターおよびサブインストラクターを共同ホストにする。</li> <li>・打ち合わせ後、学生が自由にカメラ ON にできないようにするため、セキュリティ:「ビデオの開始」のチェックを外しておく。</li> </ul> 
<p>8:50- または 15:50-</p>	<p>入室開始</p>	<p>待機部屋にいる教員と学生の入室開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Zoom に入ってきた教員、学生の音声 ON になったらミュートにする。</li> <li>・チャットで「番号」と「教員」と「_(アンダーバー)」を追記し、「氏名」をフルネームに修正するように促す(例: 1教員_西山知佳)。</li> </ul>
<p>9:00-10:00 または 16:00-17:00</p>	<p>講習開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習が始まったら冒頭に人間健康の教員紹介があるので、セキュリティ:「ビデオの開始」のチェックをして、カメラ ON にできるようにする。</li> </ul>

・開始 5～10 分ほどしたら、ブレイクアウトルーム作成開始  
以下の作業、2 人 1 組になり作業を行うと効率的にできる。

・ブレイクアウトルーム作成

- ① 学生人数を把握し、参加をしている人間健康科学系の教員人数で割り何グループできるか計算する。インストラクターやサブインストラクターはブレイクアウトルーム対象外。
- ② 画面右下の「詳細」→「ブレイクアウトルーム」をクリックし、①で出したグループ数で「自動で割り当てる」を選択し「作成」をクリックする。
- ③ 教員が 0 人の部屋には、教員が複数人いた部屋から教員を手動で移動させる。

注1. 手順書で 2 人組になっている先生は、番号を手掛かりに一緒のグループにする。

注2. 榛葉先生・上野先生担当の zoom には、現地対応の「4 共(現地)」というアカウントがあるが、ブレイクアウトルームの割り当ては行わない。

- ④ オプションをクリックして、「ブレイクアウトルームは次の時間後に自動的に閉じます」のところで、「10 分」と設定する(下図画面参照)。

「参加者がいつでもメインセッションに戻るができるようにします」と「割り当て済みの全参加者を自動でブレイクアウトルームに移動」にチェック、「ブレイクアウトルームを閉じた後のカウントダウン」「時間切れ時に自分に通知」はオフにする(下図画面参照)。

参加者によるルーム選択を許可  
 参加者がいつでもメインセッションに戻るができるようにします  
 割り当て済みの全参加者を自動でブレイクアウトルームに移動

ブレイクアウトルームは次の時間後に自動的に閉じます。 10 分  
 時間切れ時に自分に通知  
 ブレイクアウトルームを閉じた後のカウントダウン  
カウントダウン タイマーを設定: 60 秒

オプション 再作成 ルームを追加 すべてのルーム...

- ⑤ 準備ができたなら、インストラクターとサブインストラクターにブレイクアウトルーム準備完了の合図をチャットなどで送る。

		<p>⑥ インストラクターが、学生にブレイクアウトルーム「開始～」と伝えたら「すべてのルームを開く」をクリックする。</p> <p>⑦ ブレイクアウトルームがあと1分になったら、インストラクターまたはサブインストラクターに対して【あと1分】の合図をチャットなどで送る。</p> <p>⑧ ブレイクアウトルームが終わりメインルームに全参加者が戻ってきたことが確認出来たら、混乱を防ぐために全員をミュートにしてインストラクターのみ解除する。その後、インストラクターまたはサブインストラクターへブレイクアウトルーム終了の合図をチャットなどで送る。</p> <p>・講習が終わるまで視聴する。途中、ミュートが解除されている人やカメラが ON になっている人がいたら、ミュートにしたりカメラ OFF にする。</p> <p>・講習が終わるまでに、Zoom にログインしている人間健康の教員人数と学生数、配信教室にいる教員数をカウントして記録する。</p> <p>・講習終了近くなったら、チャットにアンケートの URL (<a href="https://forms.gle/jRZS3FadsLLRgky88">https://forms.gle/jRZS3FadsLLRgky88</a>)を流す。</p>
--	--	---

### 3. 想定されるトラブル対応

- ・ PCトラブル

教務のノート PC①②を予約していますので、ご自分の PC と貸出 PC を同時に立ち上げ、ログインし貸出 PC を共同ホストとして設定してください。

- ・ 学生の数が参加教員数を下回った場合（ほぼあり得ない）

1 グループに学生は 2 人以上、教員は一グループに対し 1 人に設定してください。可能性は非常に低いですが、配置できない教員がいる場合、教員だけのグループを作成したうえで、ブレイクアウトルーム開始後、そのグループに参加し「学生人数不足のため配置できなかったので退出していただき、次回の（または、翌日の）救命救急講習開始時間に再度参加お願い申し上げます」と伝え、そのグループから退出し、全体のセッションに戻ってください。

例：学生 10、教員 25 人の場合

1G=学生 2 人、教員 1 人；2G=学生 2 人、教員 1 人……。配置できない教員 20 人。

- ・ ブレイクアウトルームの途中で学生が誤って出てしまった場合

再度学生がログインしてきた場合、元のブレイクアウトルームには戻しません。メインルームに残っているサブインストラクターがこれらの学生の対応をします。

E) インターネット環境がない学生向け現地対応係

1. 当日の流れ

時間	項目	内容
8:30	開錠 集合	国際高等教育院(施設掛)により、吉田南開錠 吉田南 4 共 30(3F)へ集合 田畑先生:人間健康教務掛から受け取ったお水(500ml を 3 本)と紙コップを持参(お水、紙コップは置きっぱなしで可。)
8:35	配信準備	・リーダー(江川先生[人間環境学研究科])、田畑先生、国際高等教育院の事務の方々(窪田さん、魚住さんなど)と顔合わせ。 ・国際高等教育院の魚住さんにて現地映像配信用の PC 準備。PandA へのログインも魚住さんの ID にて、以下の学部(学科)の Zoom①へ常にログインする。 4/4(火)9:00-10:00:文学部 16:00-17:00:総合人間学部・教育学部 4/5(水)9:00-10:00:工学部(地球工学科・建築学科) 16:00-17:00:工学部(電気電子工学科・情報学科) 4/6(木)9:00-10:00:医学部(人間健康科学科)・薬学部 16:00-17:00:農学部 ・Zoom 画面をスクリーンに映し学生に見せるが、PC のカメラは OFF、ミュート。
8:35-	学生誘導	・国際高等教育院の事務の方々が学生を誘導される。 ・入り口で事前に登録した画面を提示してもらい、田畑先生に確認してもらう。予約なく参加した人も参加させる。 ・あっぱくんが置いてある座席に座るように誘導する。
9:00-10:00 または 16:00-17:00	講習開始	・映像が見やすいように部屋の照明の調整を行う。 ・Zoom の映像を学生が見ているかを確認する。 ・もし気分が悪い学生が出たら、教室後ろに誘導して休ませる。  【ブレイクアートルーム時のリーダーの役割】 ブレイクアートルームの際、「4 共(現地)」のアカウントは、Zoom のメインルームに残ったままにする。ブレイクアートルーム中、メインルームからインストラクターの姿はない。 1. PC のスピーカーを Off にする 2. もし誤ってブレイクアートルームに割り当てられていたら、ルームから退出する。 2. 冒頭に近くの人とお互い自己紹介をするように促す。 3. 準備しているあっぱくんを使って胸骨圧迫を体験してもらう。

		<p>4. メインルームの画像(PC画面)にインストラクターが戻ってきたら、スピーカーを On にして音声が聞こえるようにする。</p> <p>【ブレイクアウトルーム時のリーダー以外の教員の役割】</p> <p>1. 1 m 以上の距離の確保など感染対策を行いつつ自己紹介が円滑に進められるよう、数人のグループ作成や誘導に協力する。</p> <p>2. 10 分経ち、スクリーンにインストラクターが戻ってきたことをリーダーが気づいてなかった際には、声を掛ける。</p> <p>【講習終了後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーは、アルコールワイプを使って使用したあっぱくンを拭くように指示をする。</li> <li>・田畑先生はアルコールワイプを学生に配布する。</li> <li>・拭き終わったら、午前の場合、昼からの健康診断へ行くように促し、午後の場合、気を付けて帰宅するように伝える。</li> <li>・4/6(木)午後の講習後は、あっぱくんの消毒せず、学生にあっぱくンを段ボールに戻すように伝える。</li> </ul>
10:00- または 17:00-	片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の忘れ物がないか、あっぱくんの紛失がないか確認。</li> <li>・吉田南 4 共 30(3F)の部屋の施錠は国際高等教育院(施設掛)が担当</li> </ul> <p>4/6(木)終了後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールに入ったあっぱくンを 3F 演習室に戻す。</li> <li>・田畑先生:あっぱくんの部屋の鍵を国際高等教育院棟の事務へ、余った水とコップは人間健康教務掛に返却。</li> </ul>

## 2. 体調不良、怪我など

- ・ 4 共 30(3F)後方は救命救急講習中の救護場所とし、水と紙コップを準備しています。
- ・ 講習中、もし気分が悪い学生が出たら休ませて下さい。無理に講習を継続させる必要ありません。

## 3. 地震・火災等避難方法

万が一、講習中に地震・火災等の緊急事態が行った場合は、リーダーの指示に従い非常口(4 共 30 は東側(窓側))から避難するよう学生を誘導して下さい。

## VIII. 講習直前、講習中に困ったことが起きた場合

講習直前、講習中に何か困ったことが起きた場合、黒木裕士先生の携帯に電話をして下さい。その際、担当されている学部も教えて下さい。  
なお講習開始前で時間的に余裕があるときには、教務掛にご連絡下さい。



## Ⅷ. 4月1日に着任される先生方および、その先生方をサポートして下さる先生へ

### 1. 4月1日に着任される先生方へ

新入生を対象にした救命救急講習は、人間健康科学系専攻が全学部学生に提供する授業科目の1つとしてみなされており(4単位分)、全教員が参加する重要な行事に位置付けられています。ご着任されたばかりで、慣れない環境で大変な時期だと思いますが、ご協力程よろしく申し上げます。以下に参加していただく際のポイントを記載しておきます。

#### 4月4日(火)のポイント

SPS-IDを使って、PandA(パンダ)<https://panda.ecs.kyoto-u.ac.jp/portal/>にログインしてください。

この手順書15-17ページ「2023年度 新入生3000人 救急救命講習サポートスタッフ配置」でご自身の名前をご確認下さい。横に記載されている先生がペアになる先生です。ペアになっておられる先生と同じブレイクアウトルームにこちらで自動的に割り当て誘導致します。

10分間のブレイクアウトルーム中は、ペアの先生が学生をどのように誘導しておられるか、手順書を見ながら参加して下さい。先生方も、学生同様にブレイクアウトルームの冒頭で30秒間の自己紹介をしていただきますが、学生の誘導をしていただく必要ありません。午前・午後ともに参加して、流れをつかんでいただくことが目的です。

#### 4月5日(水)と4月6日(木)のポイント

さあ、独り立ちです。4月4日(火)ペアの先生が実施されていたように、10分間のブレイクアウトルームで学生を誘導して下さい。

### 2. 4月1日に着任される先生方をサポートして下さる先生方へ

新たに着任される先生方のサポート役を担って下さりありがとうございます。新たに着任される先生は、4月5日から「独り立ち」して10分間のブレイクアウトルームの運営を実施されます。先生方は手順書に沿って実施していただくだけで結構です。

もし、講習後に新任の先生から質問やご相談がありましたら、対応していただきますようお願いいたします。内容によっては、黒木先生や西山へご連絡いただければ対応致します。

2023 年度新入生 3000 名へオンラインの救命救急講習の計画立案、運営、サポートスタッフ手順書作成は、救命救急講習 Project TEAM メンバーおよび、人間健康科学系専攻の教員によって行いました。

【救命救急講習 ProjectTEAM メンバー】

チームリーダー	石見 拓(医学研究科・予防医療学分野・教授)
サブリーダー	黒木裕士(医学研究科・人間健康科学系専攻・教授)
チームメンバー	大鶴 繁(医学研究科・初期診療・救急医学分野・教授)
チームメンバー	田中真介(国際高等教育院・准教授)
チームメンバー	金丸敏幸(国際高等教育院・准教授)
チームメンバー	江川達郎(人間・環境学研究科 認知・行動・健康科学講座・助教)
チームメンバー	島本大也(医学研究科・予防医療学分野・特定助教)
チームメンバー	谷間桃子(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
チームメンバー	浅瀬万里子(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
コーディネーター	西山知佳(医学研究科・人間健康科学系専攻・准教授)

【Zoom 操作担当、資料作成担当、現場担当サポート教員】

田畑阿美(医学研究科・人間健康科学系専攻・講師)
上野智弘(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
鳥井美江(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
榛葉旭恒(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)

2023年度 新入生3000人救急救命講習会サポートスタッフ配置(2023.3.14現在)

2023/4/4(火)				
日程	9:00-10:00		16:00-17:00	
講習時間				
学部(学科)	文学部	経済学部	総合人間学部 教育学部	法学部
Zoom	①	②	①	②
インストラクター	西山知佳	島本大也	杉原佳代	藤川順子
サブインストラクター	杉原佳代/浅瀬万里子	藤川順子	西山知佳/浅瀬万里子/平舘宏美	島本大也
カメラ係	金丸敏行			
ブレイクアウトルーム係	棒葉旭恒/上野智弘	鳥井美江/谷間桃子	棒葉旭恒/上野智弘	鳥井美江/谷間桃子
全体統括 トラブル対応	黒木裕士、石見 拓、梁 楠			
現地対応(4共30)	江川達郎、田畑阿美			
学生人数	220	240	180	330
サポート インストラクター	1 岡 昌吾 ・錦織 桃子	1 PATAKY T. ・ANAGNOUSTOU D.	1 若村 智子 ・宮下 美香	1 PATAKY T. ・ANAGNOUSTOU D.
	2 若村 智子 ・宮下 美香	2 古田 真里枝 ・千葉 理恵	2 ドーリング景子 ・黒田 貴子	2 稲富 宏之 ・緑川 光春
	3 ドーリング景子 ・黒田 貴子	3 稲富 宏之 ・緑川 光春	3 岡 昌吾 ・錦織 桃子	3 谷向 仁
	4 谷向 仁	4 平 和也 ・森西 可菜子	4 平 和也 ・森西 可菜子	4 谷口 匡史
	5 山之内 智子	5 建内 宏重	5 古田 真里枝 ・千葉 理恵	5 白井 由紀
	6 伊吹 謙太郎	6 任 和子	6 山之内 智子	6 近田 藍
	7 谷口 匡史	7 西中 瑠子	7 伊吹 謙太郎	7 木下 彩栄
	8 石津 浩一	8 清川 加奈子	8 建内 宏重	8 高桑 徹也
	9 谷一 靖江	9 細川 陸也	9 笹山 哲	9 伊藤 明良
	10 鎌田 真由美	10 大滝 千文	10 徳野 治	10 大滝 千文
	11 白井 由紀	11 中尾 恵	11 西中 瑠子	11 中尾 恵
	12 藤井 康友	12 森瀬 謙二	12 小島 諒介	12 藤井 康友
	13 高桑 徹也	13 松尾 英将	13 谷一 靖江	13 鎌田 真由美
	14 笹山 哲	14 金橋 徹	14 福岡 真悟	14 野中 元裕
	15 徳野 治	15 市橋 則明	15 竹之内 沙弥香	15 榑 由里
	16 野中 元裕	16 山田 重人	16 塩見 美抄	16 森瀬 謙二
	17 榑 由里	17 伊藤 明良		17 松尾 英将
	18 澤本 伸克	18 常田 裕子		18 金橋 徹
	19 福岡 真悟	19 入江 啓輔		19 常田 裕子
	20 竹之内 沙弥香	20 近田 藍		20 市橋 則明
	21 塩見 美抄	21 小島 諒介		21 細川 陸也
				22 清川 加奈子
				23 入江 啓輔
				24 澤本 伸克
				25 山田 重人
				26 杉本 直三
				27 任 和子
				28 中村 光宏
				29 恒藤 暁
				30 義村 さや香
予備教員	杉本 直三 中村 光宏			

2023年度 新入生3000人救急救命講習会サポートスタッフ配置(2023.3.14現在)

日程	2023/4/5(水)			
講習時間	9:00-10:00		16:00-17:00	
学部(学科)	地球 建築	物工	電気 情報	工化
Zoom	①	②	①	②
インストラクター	浅瀬万里子	藤川順子	平舘宏美	本間洋輔
サブインストラクター	杉原佳代	島本大也	浅瀬万里子	島本大也
カメラ係	金丸敏行			
ブレイクアウト ルーム係	棒葉旭恒/上野智弘	鳥井美江/谷間桃子	棒葉旭恒/上野智弘	鳥井美江/谷間桃子
全体統括 トラブル対応	黒木裕士、西山知佳、梁 楠			
現地対応(4共30)	江川達郎、田畑阿美			
学生人数	265	235	220	235
サポート インストラクター	1 石津浩一	1 古田 真里枝 /ANAGNOUSTOU D.	1 若村 智子	1 古田 真里枝 /ANAGNOUSTOU D.
	2 稲富宏之	2 任 和子	2 木下彩榮	2 石津浩一
	3 白井由紀	3 若村 智子	3 白井由紀	3 森西 可菜子
	4 澤本伸克	4 森西 可菜子	4 竹之内 沙弥香	4 清川 加奈子
	5 細川 陸也	5 千葉 理恵	5 細川 陸也	5 錦織 桃子
	6 竹之内 沙弥香	6 清川 加奈子	6 千葉 理恵	6 近田 藍
	7 宮下美香	7 近田 藍	7 古谷 和紀	7 任 和子
	8 山之内 智子	8 ドーリング景子	8 山之内 智子	8 建内 宏重
	9 草野 祐介	9 中尾 恵	9 草野 祐介	9 藤井 康友
	10 岡 昌吾	10 藤井 康友	10 高桑 徹也	10 稲富 宏之
	11 高桑 徹也	11 鎌田 真由美	11 伊吹 謙太郎	11 鎌田 真由美
	12 伊吹 謙太郎	12 野中 元裕	12 笹山 哲	12 野中 元裕
	13 笹山 哲	13 福間 真悟	13 PATAKY T	13 小島 諒介
	14 入江 啓輔	14 西中 瑠子	14 徳野 治	14 西中 瑠子
	15 徳野 治	15 森瀬 謙二	15 谷一 靖江	15 市橋 則明
	16 谷一 靖江	16 市橋 則明	16 伊藤 明良	16 常田 裕子
	17 金橋 徹	17 山田 重人	17 緑川 光春	17 澤本 伸克
	18 錦織 桃子	18 松尾 英将	18 松尾 英将	18 福間 真悟
	19 小島 諒介	19 伊藤 明良	19 宮下 美香	19 谷口 匡史
	20 谷口 匡史	20 緑川 光春	20 森瀬 謙二	20 大滝 千文
	21 常田 裕子		21 中尾 恵	21 入江 啓輔
	22 大滝 千文		22 ドーリング景子	22 金橋 徹
	23 建内 宏重			23 塩見 美抄
	24 塩見 美抄			
予備教員	杉本 直三 中村 光宏		杉本 直三 中村 光宏 (岡 昌吾)	

2023年度 新入生3000人救急救命講習会サポートスタッフ配置(2023.3.14現在)

日程	2023/4/6(木)			
講習時間	9:00-10:00		16:00-17:00	
学部(学科)	医学部(人間) 薬学部	理学部	農学部	医学部(医)
Zoom	①	②	①	②
インストラクター	浅瀬万里子	本間洋輔	平舘宏美	藤江 聡
サブインストラクター	石見 拓	島本大也	浅瀬万里子	島本大也
カメラ係	田中真介			
ブレイクアウトルーム係	棒葉旭恒/上野智弘	鳥井美江/谷間桃子	棒葉旭恒/上野智弘	鳥井美江/谷間桃子
全体統括 トラブル対応	黒木裕士、西山知佳、金丸敏行、梁 楠			
現地対応(4共30)	江川達郎、田畑阿美			
学生人数	180	311	300	107
サポート インストラクター	1 若村 智子	1 古田 真里枝 /ANAGNOUSTOU D.	1 伊藤 明良	1 白井 由紀
	2 白井 由紀	2 任 和子	2 細川 陸也	2 任 和子
	3 竹之内 沙弥香	3 森 西 可菜子	3 福間 真吾	3 谷 一 靖江
	4 細川 陸也	4 清川 加奈子	4 恒藤 暁	4 木下 彩栄
	5 木下 彩栄	5 義村 さや香	5 山之内 智子	5 清川 加奈子
	6 山之内 智子	6 千葉 理恵	6 岡 昌 吾	6 藤井 康友
	7 石津 浩一	7 近田 藍	7 義村 さや香	7 森西 可菜子
	8 笹山 哲	8 徳野 治	8 伊吹 謙太郎	8 近田 藍
	9 岡 昌 吾	9 谷口 匡史	9 笹山 哲	9 建内 宏重
	10 高桑 徹也	10 PATAKY T	10 石津 浩一	10 高桑 徹也
	11 谷 一 靖江	11 大滝 千文	11 小島 諒介	
	12 谷 向 仁	12 鎌田 真由美	12 徳野 治	
	13 宮下 美香	13 野中 元裕	13 金橋 徹	
	14 錦織 桃子	14 小島 諒介	14 宮下 美香	
	15 澤本 伸克	15 西中 瑠子	15 山田 重人	
	16 平 和也	16 中尾 恵	16 錦織 桃子	
	17 常田 裕子	17 市橋 則明	17 常田 裕子	
		18 山田 重人	18 谷口 匡史	
		19 福間 真悟	19 竹之内 沙弥香	
		20 稲富 宏之	20 入江 啓輔	
		21 森瀬 謙二	21 澤本 伸克	
		22 松尾 英将	22 緑川 光春	
		23 金橋 徹	23 千葉 理恵	
		24 建内 宏重	24 野中 元裕	
		25 伊藤 明良	25 西中 瑠子	
		26 緑川 光春	26 大滝 千文	
		27 入江 啓輔	27 中尾 恵	
		28 伊吹 謙太郎	28 森瀬 謙二	
		29 塩見 美抄	29 鎌田 真由美	
			30 塩見 美抄	
予備教員	杉本 直三 中村 光宏		杉本 直三 中村 光宏 本村 明重 市橋 則明 建内 宏重 松尾 英将 谷向 仁 (稲富 宏之) (古田 真里枝) (若村 智子) (平和也) (PATAKY T)	

場所: Zoom

日時: 2023年4月4日(火)5(水)6日(木)9:00-10:00と16:00-17:00

目標

1. 自分たちが胸骨圧迫を実施しAEDを使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに119番通報を行い、迅速に胸骨圧迫を実施し、AEDを使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. ブレイクアウトルームを用い、同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとることが出来る。

😊 先生方に個別対応していただきたい項目

	時刻		項目	実習項目とお願い
導入	9:00	~	9:05	・あいさつ ・人間健康の教員紹介(声を掛けたらミュートのままカメラONにしてください) ・物品の確認
	9:05	~	9:11	メッセージビデオ 動機づけメッセージビデオの視聴
	9:11		9:18	導入 心停止の概要説明
展開	9:18	~	9:21	第一話 胸骨圧迫の位置の確認
	9:21	~	9:22	119番通報とAEDの要請のDVD視聴
	9:22	~	9:23	119番通報とAEDの要請の練習
	9:23	~	9:25	呼吸の確認のDVD視聴
	9:25	~	9:26	呼吸の確認の練習
	9:26	~	9:29	・胸骨圧迫実施方法のDVD視聴と胸骨圧迫の説明 ・ブレイクアウトルームに分かれる説明
	9:29	~	9:30	ブレイクアウトルームに分かれます。
	9:30	~	9:37	😊 教員と学生の自己紹介をしてください。
	9:37	~	9:40	😊 ・カメラアングルを整えさせて、胸骨圧迫を1分体験させて下さい。 ・リズムの音声を共有して、リズムに沿って圧迫するように声掛けをして下さい ・カメラがONの学生には胸骨圧迫がうまくできているかフィードバックをして下さい ・メインルームに戻って全体実習に戻ることを説明して下さい。
	9:40	~	9:42	胸骨圧迫の交代の説明
	9:42	~	9:51	第三話 AEDの使い方の説明と練習
まとめ	9:51	~	10:00	まとめ 新型コロナウイルス感染症対応の説明、学内のAED設置場所の説明とまとめ